

発刊に寄せて



スポーツ庁長官
河合 純一

令和7年10月、スポーツ庁は創設10周年という大きな節目を迎え、このたび記念誌「スポーツ庁10年の歩み～10年のレガシーを未来の力へ～」を発刊する運びとなりました。まずは、創設以来、我が国のスポーツ振興に多大なる御尽力をいただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

平成27年10月、スポーツを通じて「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む」ことができる社会の実現を目指し、スポーツ基本法の理念の具現化を牽引するために、文部科学省の外局としてスポーツ庁が誕生しました。

この10年間、国際競技力の向上や学校体育の振興はもとより、スポーツを通じた健康増進、地域・経済の活性化、さらには国際交流・協力といった新たな領域においても、関係省庁やスポーツ関連団体、地方公共団体、民間企業等の専門的な知見を活用しながら歩みを進めてまいりました。

とりわけラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際競技大会において、多様な選手が活躍し、スポーツが持つ力と可能性が国内外に広く示されたことは、我が国のスポーツ史における重要な成果の一つといえます。

私自身、パラ水泳の選手として競技に取り組むことを通じて、スポーツによって得られる成長や喜び、人とのつながりが人生をいかに豊かにするかを肌で感じてまいりました。多くの方々の支えにより世界の舞台で金メダルを手にした経験は、まさにスポーツの持つ「力」と「包摂」の象徴です。こうした経験から、スポーツは、年齢、性別、障害の有無を問わず、すべての人に開かれたものであるべきだと強く確信しています。

一方、我々を取り巻く社会情勢は刻々と変化しています。少子高齢化や地域コミュニティの変容、デジタル技術の急速な進展など、スポーツ行政が向き合うべき課題はより複雑化しています。

そのような社会情勢の中でも、スポーツは「する」「みる」「ささえる」のみならず、「あつまる」「つながる」という価値を有しています。スポーツを通じて誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向け、スポーツの楽しさや魅力、価値などを国民の皆様に分かりやすくお伝えし、スポーツのすばらしさを実感いただけるよう努めていく所存です。

10周年という節目は、単なる通過点ではなく、新たな未来へのスタートラインです。これまでの歩みを支えてくださった皆様に改めて深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本書が、一人でも多くの方に御覧いただき、スポーツ庁の取組への御理解と、スポーツが持つ未来への可能性を感じていただく一助となれば幸いです。